

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大阪城南ケアセンターそよ風
(ユニット名)	しらゆり
所在地 (県・市町村名)	大阪府中央区森ノ宮中央2-5-3
記入者名 (管理者)	池野 明美
記入日	平成 20 年 3 月 21 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご入居者の認知症の進行を緩和し、ご入居者にとってそよ風が自らの生活の場であると実感できるよう、ご入居者の心身の状況にあわせて適切なサポートを提供いたします。さらに提供するサポートが漫然かつ画一的なものとならないようおこないます。地域社会とのつながりを大切にし、地域活動に積極的に取り組む。	スタッフ一同、常に理念を理解し利用者様に接する
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度フロアー会議と二ヶ月に一度のグループ会議を行い会議の中で理念を共有している。スタッフの人員から、グループ会議が、できていない時がある。	○ 仕事に入る前に、理念を口頭で述べてもらい、理念の実践に取り組む。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の開催が、あまり行えていなく理解してもらえとは、いけない。	○ 利用者様、そよ風が、地域にとけこんでいけるよう地域運営推進会議を二ヶ月に一度、開催していく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	暖かい日には、月に一度、近隣の公園にお弁当を持って散歩に出かけている。行事の時は、隣近所の方に参加してもらえる様な取り組みを行っている。	○ 限られた方との交流になっているので、交流の場を広げていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には、比較的参加するように取り組んでいる。老人憩いの家に、月に一度訪問している。	地域の行事も把握でき、計画が立てやすくなってきたので、これからも地域行事に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者様の担当者会議を行い一人一人の状況について話し合っているが、地域の高齢者等の暮らしに活かす視点での話し合いは、出来ていない。	○	そよ風の周りの掃除などから取り組んでいきたい。地域を視野にいれた、話し合いを行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいきたい内容をスタッフ一同で話し合い、できていない内容について取り組んでいく。理念の再確認し利用者様に接している。		できていない内容を理解し、一つずつ取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長が、隣近所におり密な関係作りを行っているが、運営推進会議が、あまりできていないのが現状である。	○	二ヶ月に一度の運営推進会議の開催を行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんサポートを通じて社会福祉協議会の職員とは、月に一度の交流を持たせて頂いている。		限られた利用者様のサービスの質の向上になっているので、全体的にも取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の職員と相談し、必要な方には、活用してもらう話し合いは、行っている。	○	権利擁護事業、成年後見制度についての勉強会は、できていなく、これから学ぶ機会を持つていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体、表情の変化を見逃すことなく、少しの変化でも管理者、リーダーに報告する体制を取っている。	○	高齢者の虐待の勉強会や講習に、積極的に参加し学ぶ機会を増やしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間と説明を行い、納得した上で契約を行っている。後日疑問があれば、いつでも話し合いの場を持つようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の訴えは、スタッフが話を聞ける環境作りを行っている。スタッフが、業務優先にならずに利用者様の話を聞く事に努める意識を持っている。	意見、不満、苦情を聞き苦情担当者の窓口を作り、組織化していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理に関しては、要望があれば行っているのが現状である。健康状態などは、変化等あれば、家族様に相談、報告おこなっている。定期的には、家族会で報告を行っており通信の方も郵送させて頂いている。	事情により訪問できない家族様には、月に一度は、連絡する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が、来客された時には、利用者様の状態等を伝え職員が話しを聞けるように時間を設けていが、スタッフが少ない場合に家族様に気を使われる事があるのが、現状である、	○ 家族様が、時間などの心配をしてくださるので、気を使われないようにゆっくりと話せる状況作りを行う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中でも、職員が思ったことを自由に言えるような環境作りに努めている。	職員の意見は、いつも聞ける体制作りに努める。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフ不足が見られ、柔軟な対応が、出来ていない時が、まれに見られる。	○ スタッフの定着に努める所から、初めていく。明けの日などに個別に時間を設けスタッフの悩みや不満を聞く体制を取る。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの役割を明確にすることにより、個々のやる気を引き出していく。現状、役割分担ができてきており離職者の数も減少してきた。	○ 役割分担をたてることによりやる気をもってもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には、積極的に参加してもらい職員の向上に努めている。</p>	○	法人外の研修は、積極的に参加してもらっているので、テーマを決めスタッフ同士の勉強会も行っていく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域での関わりが少ないのが、現状である。</p>	○	地域での関わり、ネットワーク作りをおこなっていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>朝の時間帯などにスタッフが話せる時間を設けている。話をする環境作りに努めている。</p>		忙しい時間も多々あるのでしっかりと時間がとれるように努める。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフ一人一人の意見を聞き個性を伸ばせるように関わりを持つ。毎朝、スタッフにワンデイ目標を持ってもらい夕方に達成度を聞く。</p>		運営者自信がメンタルケアの勉強を行い、スタッフの向上に努める。個人面談を行う。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>専門的な立場から、助言できる体制作りを行っている。</p>		相談は、親身に聞くように心がけていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の立場に立ち、話をしっかり聞ける時間を作っており、関係作りを大切にしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的な立場からの助言を行い相談した上で、話しを進めていっている。		適切な助言が、できる様に専門性の向上に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの物を持ってきて頂いたり、家族様と一緒に泊まってもらったり、慣れてくださるまで家族様と話し合い支援している。		場の雰囲気に慣れてもらえるまでは、スタッフがフォローして精神の安定に努める。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がするのではなく、常に一緒にする事を心がけている。		毎日の業務で、薄れていっていないかを再確認し、日々の業務に取り組んでいく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族様の参加を促し、一緒に参加して頂けるようにしている。		家族様の中には、ほぼ来られない方もおられるので、文面や電話にて参加を促して行く様に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	スタッフが間に入り、スタッフと家族様の架け橋になることもある。行事を通してよい関係作りを持ってもらうきっかけ作りにも努めている。		家族様も行事に参加したくなるような、楽しい行事の企画案も出していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来客できるようにしており、外出、外泊は自由にできるようにしている。		事業者側からの外出は、限られているが、家族様の協力もあり、外食などにはいけているが、家族様の協力が得られない利用者様については、スタッフが時間を作り支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係性を理解し、関係を持ってない利用者様に関しては、スタッフが、架け橋になり支援している。		利用者様の生活歴や性格、病歴などをしっかりと理解し、関係性が築けるように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所からの連絡はあまりないが、退所後も、相談があればいつでもかけつける姿勢である。		事業所側からの連絡は、退所後、一度ぐらしか連絡は、取っていないが、必要に応じては、連絡を密にしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位のサービスが提供出来ていない時も多々見受けられ、業務優先になりがちである。		もう一度。理念を自覚し、新しい気持ちで支援できるようにスタッフに意識づけを行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を聞き、スタッフが共有し、その人にあった暮らしに努めている。		再確認のためにもう一度生活歴を理解する必要がある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中で、スタッフが、意識を持って支援している。業務優先になっている時は、スタッフ同士や管理者が、注意するように心がけている。		その人、一人一人に沿った支援を行い、利用者様の日々の様子を把握し要望を聞き支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター内での支援内容が中心で、地域での関わりが少ないのが現状なので地域を意識した、介護計画を作成していく。	○	利用者様が、地域でのその人らしく暮らしていきどのように地域に溶け込んでいけるかをこれからも話し合い具体化していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護職員に担当者を持たせ、担当者会議を行いながら見直しを行っているが、書類関係が後まわしになっている。	○	組織の体制もしっかりしてきたので、計画作成者を中心に書類整理を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い介護計画にいかしてはいるが、記録関係は、具体的ではない。	○	具体的に記録を記入し、介護計画にいかしていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族様の要求には、できるかぎり応えている。通院の依頼が、多く柔軟な対応に心がけている。		スタッフの人員もあるが、できるかぎり家族様の要望には、応えて行きたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力以外は、関わっていないのが現状である。	○	教育機関との連携もこれから、はかっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同じ敷地のケアマネジャーとの連携はもっているが、地域の事業所との連携は、取れえないのが現状である。	○	他の事業所との連携も取っていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	あんしんサポートを通じて、相談や助言を頂いている。		一部の入居者様を通しての関わりなので、関係性を深めていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様、利用者様もかかりつけ医には、納得されているので、これからも関係を築いていきたい。		祝日、日曜が、定休日になっているので休日の適切な医療を受けられるようにしていく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	二週間に一度、往診に来て頂いているので、その時などに相談を行って頂いている。尚、緊急性がある場合は、電話での相談を行っている。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	日々の健康チェックの時に異常があれば、看護職員に連絡行い指示を仰いでいる。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	利用者が、入院されている場合は、スタッフが順番にお見舞いを兼ねて情報交換や相談に伺っている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	その時の状態や病状に応じた対応しかできていなく、終末期のあり方についてまでは、話し合いができていない。	○ これからの課題でもあるので、話し合っていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	研修を行っているが、マニュアル等の作成はできていなく、これからの課題でもある。	○ ターミナルについて話し合っていく、マニュアル作成していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	申し送りには、介護サマリーを使い、担当責任者が、十分に説明等、申し送りを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人一人の性格を理解しその時々のお気持ちを損なわない声かけを心がけている。	個々のその時に応じた声かけを心がける。他入居者様とのやりとりを記録に残す場合は、イニシャルを使うか、他入居者様と言う記録方法を活用する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の思いを受け取ることにより、ストレス等の軽減を図り自己決定を導き出す。一方、自己表現ができない入居者様は、スタッフが気付くまでに時間がかかっている、	○ 自ら思いを出される入居者には、話しをしながら納得して頂く。なかなか思いが伝わらない入居者様の様子、表情を見逃さない。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴を理解する事により各入居者様の希望に沿った支援を心がける。その日の行事等により職員側の都合での活動になることがある。	レクレーション等は、強制せずに見学のみや臥床タイムで個々の自宅にいる様な自由な時間を提供する。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみを整えることにより、生活意欲を向上させる取り組みを行っている。	ご自分の好きな洋服を着ていただいたり、外出の時は、少し意識しておしゃれをして頂く。理容室につきましては、家族様が一緒に連れて行って下さる方以外は、訪問理容に頼る。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは、元気の源ということを意識し、味だけではなく見た目でも食欲がでる工夫をしている。	食事形態は、個々に合わせた調理法で対応し、配膳、下膳については手伝っていただく、調理においては感染症の観点から手伝って頂いていないのが現状。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	在宅の時の生活習慣を大切にして入居者様の意向に沿えるように支援している。喫煙する人に関しては、スタッフと共に喫煙場所まで行っている。家族様が、持参して下さった物は家族様と共に召し上がられている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は、リハビリパンツや尿とりパットを使用して頂きその人にあつた声かけを行い誘導時間を把握している。		失禁等、続いている場合には、排泄のパターンの把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭で入浴されている感じでの入浴を楽しんで頂く為、入浴にかかる時間は、個々のペースに合わせている。		2日に1回の割合で入浴を心がけている。入居者様のペースに合わせた入浴を提供できるように支援する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家庭におられた時の生活リズムを大切に、日々の生活の活性化を図っている。		個々の体調に応じ、臥床して頂く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事労働等の手伝いをして頂くことにより生活にメリハリをつけている。		洗濯物をたたんでいただいたり、食器洗い等を手伝って頂く。食器の洗い残しのチェックをしながら、一緒に行動する様に心がける。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ側による金銭管理により、紛失の防止している。		認知症を要する為、スタッフ側の金銭管理を行っているが、家族様の許可を得て衣類等の購入を行っている。入居者様と一緒に買い物に行けていないことが多い。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の状態、天候などにより、散歩、外出の機会を設けることにより気持ちのリフレッシュを図っている。		寒くなってきて、外出の機会が減少しているが、出来る限り、散歩に出かける。地域行事への参加、買い物、外食等の機会を設ける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族様と一緒に外出することにより、普段より活動範囲を広げ、心身の活性化を図っている。		家族様の意向により、家族様と一緒に外出、外泊、外食等をされる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への連絡をすることにより、入居者様の安心感を得ている。		スタッフによるダイヤル後、家族様と交代し会話をして頂く。一方、家族様が仕事であったり、頻繁な訴えによる場合の対応が、統一出来ていない。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会や誕生日会など機会あるごとに連絡させて頂き来所の機会を増やしている。		家族様の面会時は、ご本人様と居室にて話しをされたり、差し入れ等の食べ物を一緒に食べられたりしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によるデメリットを理解し、リスクマネージメントを実践する。		リスクマネージメントを視野に入れ、入居者様の行動を見守ることにより、身体拘束をせず生活をして頂ける。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を使用せず比較的、自由に行動して頂ける支援をする。	○	玄関のオートロック及び洗濯室等、入居者様の問題行動が見られる場所、危険場所については、施錠している為、声かけにてできる限り施錠しない方向にしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間の所在、安全確認により入居者様、家族様の安心を得ている。		居室内、訪室の際は必ず声かけし、入居者様の了承のもと訪室する。入浴等の準備については、入居者様と一緒に準備をする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できる限り、家庭での生活を感じて頂く為、保管、管理は、最低限にする。		保管、管理については、ご本人家族様と相談した上で決定する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ一人一人が、個々の状態を把握することで、事故の防止に努める。		歩行時の見守り、杖使用の声かけ等をする。服薬については、スタッフ管理で、服薬時入居者様に手渡し後、服薬確認をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の初期対応については、訓練が出来ていないのが現状である。	○	応急手当の訓練等の実施及びスタッフ間の応急手当のスキルアップを図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をまだ一度しかできておらず、理解したとまではいっていない。	○	避難訓練の実施。スムーズに対応出来る様に日頃から避難時の確保確認を行い地域の人々の協力を得る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	スタッフ一人一人が、入居者様のリスクを把握することにより家族様へのリスク及び対応の説明をすることに努めている。		個々のリスクの理解を深めることにより事前にリスクを防ぐことを可能にする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ一人一人が入居者様の日頃の状態を把握し小さな変化を見逃さないように心がけている。		個々の小さな変化を見つけるとスタッフ間の連絡及びナースへの連絡を取り、指示を受け対応をする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳及び、お薬説明書により作用、副作用を知り薬の効果を知る事によりスタッフ一人一人が、薬の把握するように努めている。		往診時の対応にて薬が、変わった時など他のスタッフへの連絡。個々の薬について知ろうとする努力。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックをすることにより滞便状態の把握している。		滞便者に対しての腹満チェックをしたり、乳製品を摂取してもらう。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持をすることにより食事をおいしく食べられ健康を保持することを理解し、生活にメリハリを持って頂くように取り組んでいる。		夕食後の口腔ケアを行う。今後意識して毎食後の口腔ケアを実施する。口腔ケアが難しい方には、お茶をしっかりと飲んで頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックを行うことにより、個々の水分量を把握する様に努めている。		食事量の把握をすることで、体調の変化に気付く。補水を行うことで脱水状態を防ぐ。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、スタッフで共有している。手洗いうがいをこまめに行っている。		入居者様、スタッフ共に手洗いうがいの徹底を図る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、必ず遅出出勤者が、退社する前に消毒をしている。		食材を扱うときの手洗いの徹底。冷凍品といえど長期保存になっている物に関しては、処分する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放的で訪問して頂きやすい反面、車が止まっていない時の車止めに気づきにくい。	○	車止めの場所を認識して頂けるよにする。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から入ってくる光が強く、入居者様にとっては、不快と思われる。季節感のある壁面作りをする。		射光については、カーテンで光を調節する。不快な思いを持たれないような配慮、工夫をする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで、他の入居者様と話をされたりコタツに入っのくつろぎスペースを設けている。		テレビの角度を調整しテーブル席の方もコタツにおられる方も観ることが出来る工夫をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が自宅であることを認識して頂ける様な配慮をすることで、安心感を持って頂いている。		家族様に自宅で使われていたもの、愛着のある物を何か持参して頂く様に促す。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内の臭いや空気のおよみにより、入居者様及び面会に来られた家族様、知人の方が、不快になられる事を認識する。		居室、床等の掃除は、時間を作り比較的容易に出来ているが、換気扇の掃除が、なかなか出来ていないので時間を作って掃除をする。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路になる部分の手すりの設置により杖との併用で移動が出来る。		車椅子の方の移動に妨げになる物の排除及び移動しやすい空間作りをする。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知度、理解度を知る事により、混乱、失敗が見られる前に声かけをする。繰り返し声かけすることで失敗を軽減させている。		トイレ等の混乱が見られる為にわかりやすい表示をする。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の前に椅子をおき休憩してもらっている。		プランター等の利用で草花やミニトマト等、育てる。水遣りを通じて育てる楽しみを見出して頂く。ベランダの利用は、出来ていない。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者様が安心して暮らせる様に、スタッフが家族様に近い存在になれる様に取り組んでいる。  
家で暮らしている感覚を忘れないためにも、癒しの空間作りに取り組んでいる。  
月に一度、お弁当を持って、近隣の公園にピクニックに行っている。